

## II. 調査結果の要約

1. 底質の粒度分布は沿岸帯全体として見ると 2002～2003 年まで増加傾向を示していた粒径 0.5mm 未満の割合が減少した一方、0.5～1.0mm と 1.0～2.0mm の割合が増加した（図 1）。地域別に見ると、0.5mm 未満の割合の減少と 0.5～1.0mm と 1.0～2.0mm の割合の増加が見られたのは湖

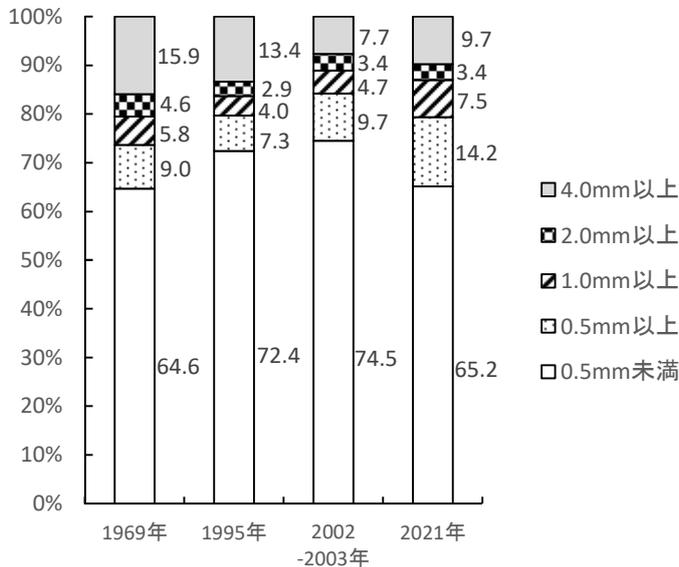


図 1 粒度分布の変化

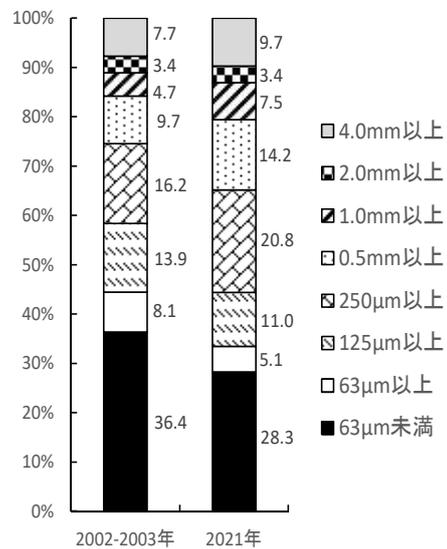


図 2 粒度分布の 2002～2003 年調査結果との比較

東部、湖西部および湖北部であり、湖南部では過去から一貫して 0.5mm 未満が大部分を占めていた。2002～2003 年の調査から 0.5mm 未満の割合をさらに 4 区分に分けて測定しているが、沿岸帯全体で 63 μm 未満の割合の減少が認められた（図 2）。

また、底質階級別の面積割合は、沿岸帯全体で砂 (S) が 40.5% で最も多く、次いで泥 (M) が 22.2%、砂礫 (GS) が 17.6%、砂泥 (SM) が 16.2% の順となった。2002～2003 年の調査結果と比較すると砂礫 (GS) と砂 (S) がやや増加した一方、砂泥 (SM) と泥 (M) がやや減少した（図 3）。

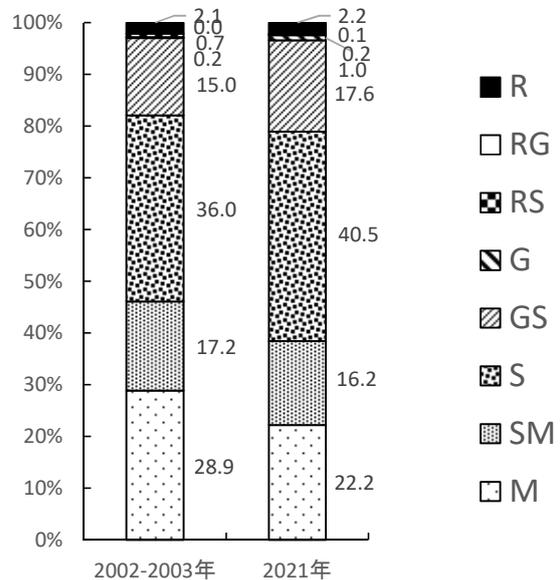


図 3 底質階級別面積割合の 2002～2003 年調査結果との比較

2. 貝類の推定現存量は、個体数では 28 億 5647 万個、重量では 2,569 トンで、前回（2002-2003 年）とくらべて個体数で 32%（図 4）、重量で 29%（図 5）に激減した。種類別の個体数（重量）

では、シジミ類が 39% (44%)、タテボシガイが 29% (21%)、タニシ類が 49% (66%)、カワニナ類が 28% (37%) となり、タテボシガイの減少が最も著しかった。また、1969 年とくらべるとシジミ類の重量は 10%にまで低下した (図 5)。

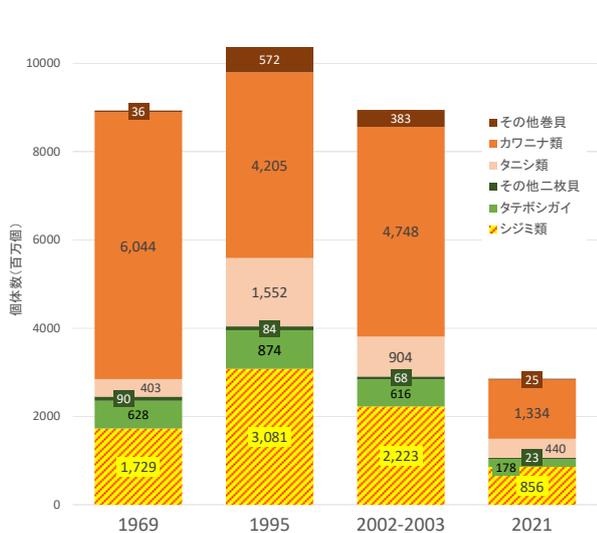


図 4 貝類の推定個体数の推移

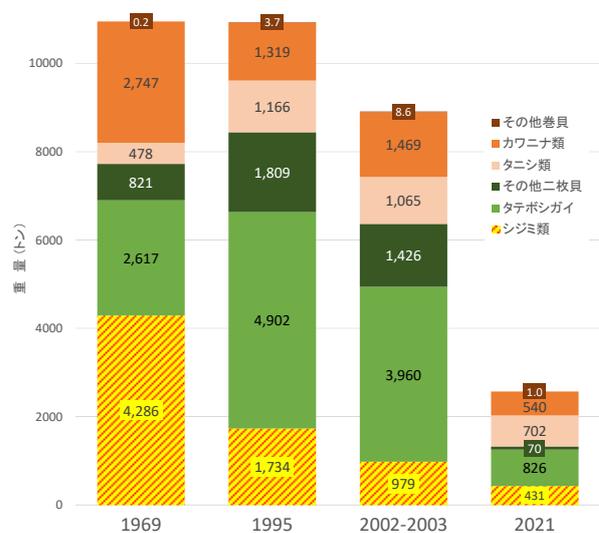


図 5 貝類の推定重量の推移

3. 調査期間中に各基点の水深 7m (一部 5m) 地点で観測された平均流速は、0.8cm/秒～13.6cm/秒と小さかったが、1割を超える基点で瞬間的に 70cm/秒を超える振動が観測された。